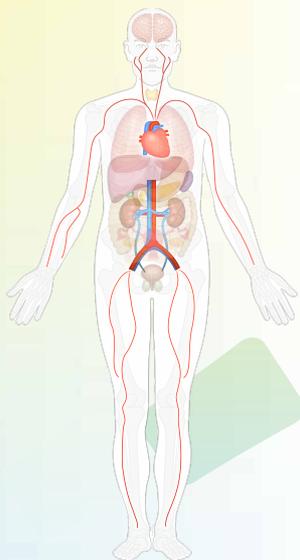


循環器疾患



検査項目 ※検査項目をクリックいただくと 詳しい情報を閲覧できます。	目的		循環器疾患	
	対象			
生化学 I 総項目数	主な臨床的意義		10	5
実施料			109	93
判断料			144	144
●合算			253	237
1 γ-GT	胆道閉塞・アルコール肝炎・脂肪肝			
2 AMY	膵臓・唾液腺・腎臓			
3 ALP	胆道・骨			
4 AST	肝臓・心臓	●		
5 ALT	肝臓	●		
6 CK	心筋・骨格筋・甲状腺	●		●
7 LD	心臓・肺・骨格筋・溶血	●		
8 コリンエステラーゼ	肝硬変・脂肪肝・農薬中毒・麻酔・栄養			
9 総ビリルビン	肝炎・胆道閉塞・溶血			
10 直接ビリルビン	肝炎・胆道閉塞			
11 クレアチニン	腎臓・筋肉量	●		●
12 尿素窒素	腎臓・組織蛋白異化			
13 総蛋白	栄養	●		
14 アルブミン	栄養・炎症			
A/G 比 (計算項目)	一般状態			
15 尿酸	痛風・腎臓・肥満			
16 ブドウ糖	糖尿病	●		
17 中性脂肪	動脈硬化	●		●
18 総コレステロール	動脈硬化	●		●
19 LDL コレステロール	悪玉コレステロール・動脈硬化			
20 HDL コレステロール	善玉コレステロール・動脈硬化	●		●
21 HbA1c	糖尿病			
22 CRP	炎症	●		

・ HbA1c は血液形態・機能的検査項目で、実施料は 49 点、判断料は 125 点、CRP は、免疫学的検査で、実施料は 16 点、判断料は 144 点。

* CRP の適応疾患については、診療報酬支払基金の判断に違いがあるので注意が必要

○は、計算項目で保険上算定できない。

●は、10 項目を超えることを容認するなら加える。

●は、生化学以外の検査項目

●は、筆者個人の見解

◆循環器疾患

- ・ 急性心筋梗塞に伴う心筋からの逸脱では CK、AST と LD が評価される。
- ・ その際に、AST と ALT を比較することで診断感度が高まる。(AST>ALT)
- ・ 危険因子としての糖尿病のスクリーニングにはブドウ糖、脂質異常症には中性脂肪、LDL コレステロールと HDL コレステロールを測定。総コレステロールを測定し Friedewald (総コレステロールー HDL コレステロールー 中性脂肪 / 5) の式で LDL コレステロールを算出する場合、中性脂肪が 400mg/dL を超える際には non-HDL コレステロール値を用いる。
- ・ CRP は心筋壊死に反応する炎症マーカーであり、高感度 CRP (低濃度域での変動) は動脈硬化の評価マーカーでもある。